

1. 東葛地域の特徴

東京のベッドタウンとして人口を増やしてきました。柏市、松戸市、野田市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市の6つの市を抱えた100万人以上の人口を抱えた地域です。

現在でも、流山市はTXの沿線に人口を増やし続け、新たな問題を抱えています。

6つの市の中では、柏市が中核都市に申請し、市独自で保健所、児童相談所（予定）を持っています。この東葛地域に東葛労連、野田地区労、松戸労連という3つの地域労連があります（以前は4つの地域労連）。

2. 「労働・生活・健康なんでも相談会」の取り組みの経過（今年、14年目）

2009年、2010年は年2回、松戸会場、柏会場で行い、2011年からは年1回、松戸会場と柏会場を交互に実施してきました。今年は柏会場で第16回の準備をしています。

3. 相談会の形態について

実行委員会形式で、会場地域が会議等を主導して実施。地域労連加盟労組、地域社保協、東葛病院組織部、市議会議員等が実行委員会に加わり、毎年、8～9月から準備を始めます。

◎労働、生活、健康の相談を専門スタッフがいて、ワンストップで同じ会場無料で受けられます。

①実行委員会のあり方、今年度の取り組みのコンセプトなど取り組みの骨になる内容

②スケジュールー日時、事前相談日時の決定

③各市への要請内容検討・自治体への要請

④専門スタッフへの要請ー医師、看護師、ケアマネ、ソーシャルワーカー、弁護士、
税理士、社会保険労務士、労働相談員、県・市議員

⑤宣伝の方法・日時ー各市への広報誌への要請、各地域労連の駅頭宣伝など

⑥当日運営の検討ー会場設営、相談受付から相談までの流れ確認、スタッフ配置、
連絡体制確認

4. なぜ、14年続いてきたのか

- ①東葛地域に民主的な医療機関、東葛病院があったことが大きいです。健康相談だけでなく、ケアマネ、ソーシャルワーカーの方も参加していただいているので、生活支援までの援助の糸口がつかれます。また、付属の東葛看護学校のカリキュラムの中に位置付けられていて、毎年看護学校の生徒さんたちがフィールドワークとして参加し続けています。
- ②専門スタッフや行政の担当者としてしっかり、結びつきをとってくれ、つないでくれる地域社保協の方たちの存在も大きかったと感じています。
- ③地域労連も1年の活動・運動の中に、「なんでも相談会」の宣伝、準備等を位置付け、相談日当日も駅頭での宣伝行動を担い、相談を下支えしています。
- ④参加している方たちのまとめの会議等で、様々な立場の方の話が聴け、学習の場にもなっています。また、相談内容の傾向から、社会の状況をつかむことができます。さらには、新自由主義が浸透し自己責任がまん延するなか、お互いに助け合うという人間的なかわりを相談を受ける側も再認識しているように感じます。

(当日参加団体：47)

5. 課題として出ていること

- ①生活相談が増える中、法律に関わる無料相談会の傾向が強くなっています。
- ②外国人技能実習生がいる現場で起きている問題など外国籍の方からの相談までの対応がスタッフ面で難しいです。
- ③貧困、低所得問題を考えると食糧サポート的な取り組みも一緒にできないものだろうかという問題意識が出されています。